

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年11月12日

【2018年11月3日～2018年11月9日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対円、対米ドルともに下落しました。また、2年国債金利は低下しました。FRB(米国連邦準備制度理事会)がFOMC(米国連邦公開市場委員会)において次回の12月会合で追加利上げに踏み切る可能性を示唆したことなどから、小幅にブラジル・レアル安が進行しました。

市場の注目が集まるブラジルの年金改革については、ボルソナロ次期大統領とテメル現大統領が年内の年金・恩給に関する社会保障改革について会談を行いました。会談では、現在、リオ州の治安確保のために発令されている直接統治令の中止などについて話し合われたと現地紙が報じています(直接統治令発令中は憲法改正を行うことができないと定められているため)。

経済指標に関しては10月のサービス業PMI(購買担当者指数)が発表されました。先に発表された製造業PMIと同様に前月から上昇し、製造業・サービス業・コンポジット(製造業とサービス業の複合)の3指標すべてで景気感の改善と悪化の分岐点である50を上回り、足元のブラジル経済の回復を印象づける内容となりました。

【2】今週の見通し

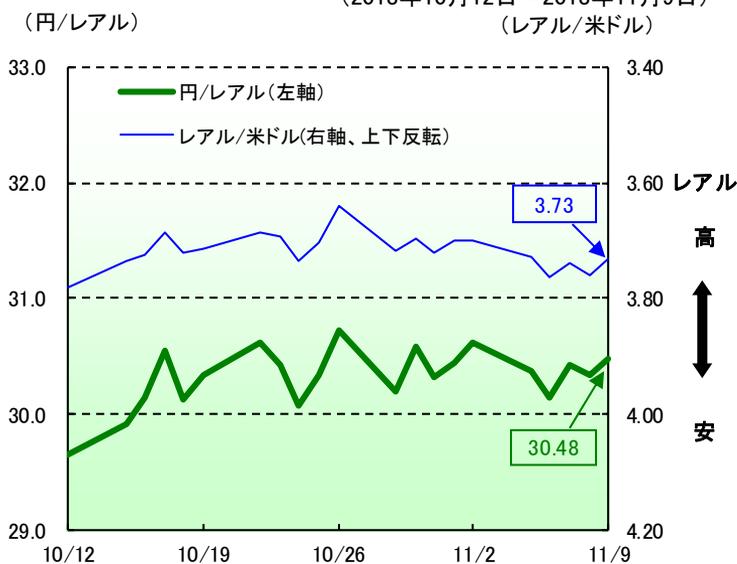
今週は、小売売上高や経済活動指数などの経済指標の発表が予定されています。

市場の注目は引き続き年金改革の行方に集まりそうです。テメル現大統領が進めてきた憲法改正を伴う改革以外にも、赤字削減の早急の対策として、憲法改正に頼らない内容での改革案をボルソナロ次期大統領が模索していることが報じられています。

また、年金改革以外では、次期政権の閣僚人事にも注目が集まりそうです。特にブラジル中央銀行総裁職の行方は不透明で、年末に辞任の用意があると伝えられた現総裁のゴールドファイン氏が続投する可能性もあることから大きく注目されています。

【ブラジル・レアル 為替推移】

(2018年10月12日～2018年11月9日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

(2018年10月12日～2018年11月9日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>